

授業概要

学習とは、「経験によって生じる比較的永続的な行動の変容」である。学習心理学の対象は、学校の勉強に止まらず、日常生活の様々な場面で見られる行動をも含む。そこで授業では、学習に関する身近な現象を取り上げながら、学習心理学の理論と方法、その応用について講義する。また、学習理論の延長上にある記憶や動機付け、さらには発達理論との関わりについて学び、年齢に応じた学習や教育の方法を考察する。授業中に実施できる簡単な心理学実験を体験しながら、学習心理学および心理学全般への理解を深めていく。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：学習心理学とは？
第 2 回	学習の定義：動物の学習と人間の学習
第 3 回	経験の効果：馴化と鋭敏化
第 4 回	学習の仕組み：古典的条件づけの基礎
第 5 回	学習の仕組み：古典的条件づけの手続きと日常における条件付けの例
第 6 回	学習の仕組み：オペラント条件づけの基礎
第 7 回	学習の仕組み：オペラント条件づけの手続きと日常における条件付けの例
第 8 回	学習の仕組み：オペラント条件づけにおける強化と罰
第 9 回	学習の仕組み：学習における生物学的制約
第 10 回	条件づけの応用：動機付け・行動療法
第 11 回	様々な学習(1) 観察学習
第 12 回	様々な学習(2) 条件づけ以外の学習
第 13 回	記憶と学習(1) 記憶の種類と学習方略
第 14 回	記憶と学習(2) 記憶の変容
第 15 回	知識と学習：知識
第 16 回	学期末試験(筆記)

到達目標

心理学における学習とは何かを理解し、学習理論について基礎的な説明ができる。また身近な事例を用いて様々な学習形式を学ぶことで、これまで行ってきた自らの学習を振り返るとともに、対象者の年齢に合わせた学習や教育の方法を構築することができる。

履修上の注意

学習心理学における基本的な知識を吸収するように努めること。「学習」と「発達・教育」の関係に興味のある学生の受講を期待する。理論を実践につなげるため、簡単なワークショップやまとめの課題を課すことがある。

予習・復習

講義の最後に予習・復習のポイントを解説する。授業中に指示した用語や興味を持った用語、理解が十分でない内容は各自で確認しておくこと。講義で詳しく扱えない内容については適宜関連図書を紹介するので、興味を持った内容については、各自読んで欲しい。

評価方法

評価は、授業に 2/3 回以上出席し、授業時間内に実施する課題（ワークショップやレポート）を行い、かつ最終試験を受験した者に対して行う。最終試験の成績 70%に、平常点（受講態度および課題）30%を加えて総合的に評価する。

テキスト

テキストは使用せず、毎回学習内容をまとめた授業資料を配布する。
参考文献は授業の中で紹介する。